

共生力

HP: <http://www3.ocn.ne.jp/~koryu/>

Tel: 03-3222-4190 Fax: 03-3222-4199

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-3-9 第2太陽ビル 3F

発行人: 黒田文男

黒田代表理事ら中国を訪問

各団体、困難な時期での訪問に歓迎の意



黒田代表理事と李寧宋慶齡基金会秘書長（基金会本部）

2月25-27日、黒田文男代表理事、山中正和・吉田一徳業務執行理事、初岡昌一郎理事の4名は、北京を訪問し、中国宋慶齡基金会をはじめ、中国教育国際交流協会、中国教育科学文化衛生体育工会全国委員会(旧称・中国教育工会)と会談しました。各団体からは心のこもった歓迎を受けると共に、友好を確認し、今後の事業についての建設的な意見交換を行ないました。また宋慶齡基金会との会談には、協会の周牧之在北京駐在名誉代表が同席されました。

易県音楽教師養成5周年を記念して

易県音楽フェスティバルを

2月26日、一行は宋慶齡基金会を訪問し、李寧秘書長と今後の取り組みについて意見交換を行ないました。

李寧秘書長は、昨年訪中団の計画を乱して申し訳ない、今までつちかってきた信頼関係を大切に、これからの交流について意見交換をしたい、と述べました。

また、貴協会と宋慶齡基金会との共同プロジェクトが育ててきた「易県音楽研修プログラム」は、音楽専任教師の少ない貧困地域で、大きな貢献を果たしました。黒田代表は、このプログラムに過去4回すべて出席され、これまでに電子キーボードを300台寄贈されました。今後どのように発展させるのか、影響を拡大させるのか、研修の意欲や質をどう高めるのかを考えたい。今年は5年目にあたるので、その成果を披露したいと思っている。例えば、音楽フェスティバルなどを易県と相談してみたい。

黒田代表理事は、私たちの交流は友情から生まれたものです。これまでの交流は日本と中国の教育交流に寄与したと思います。易県でのプロジェクトを開始した時は、道路は舗装されておらず、校舎も貧しく、教室に入ると、机はあっても、椅子はありませんでした。休み中は自宅に持ち帰っていると聞きました。今は道もよくなり、親しい友人も増えました。訪問するたびに、子どもたちの学習意欲には感動しています。今までの交流の節目として、電子キーボードのヤマハとも連携して、音楽フェスティバルの開催に賛同したい、と述べました。

協会は、昨年三重の先生方とともに易県を訪問した経緯を踏まえ、2013年度に宋慶齡基金会の教育代表団の日本(三重)への招へい状を手渡しました。また、今年8月に協会役員、各県代表から構成される10名規模の易県訪問代表団の訪中を要請しました。



宋慶齡基金会より寧夏への支援を提案

李秘書長は、易県プログラムを広げる方向もあるのではないかと、寧夏自治区でのプロジェクトを提案しました。提案では、寧夏彭陽県は回族が多く居住する少数民族自治区で、基金会の援助対象県である。また、胡啓立主席のゆかりの地でもある。1980年以來、外国企業の援助の実績がある。しかし、音楽教師養成などのプログラムは経験していないと述べ、黒田代表に寧夏彭陽県の実態を見て欲しい、と述べました。会談には、基金会連絡部副部長・宋健、基金部項目處處長・史金龍、国際処副処長・劉穎他の皆さんが参加されました。

中国教育国際交流協会を訪問



中央・黒田代表理事、右・林佐平常務理事

2月26日、一行は中国教育国際交流協会を訪問し、林佐平常務理事と旧交を暖めると共に、最近の日中関係について懇談しました。

黒田代表理事は、情勢が厳しい時こそ、私たちの育ててきた友好交流活動が大切である、と述べました。林常務理事からは、日本人日本語教師の中国高等教育機関への派遣についての提案がありました。

双方は、互いの分野で、共通点を大切にして、交流を進めていくことを確認しました。

会議には、亜太部主任助理・張瓊瓊、徐穎他の皆さんが出席されました。



フジ国際語学院卒業式に参加

3月6日、赤岡直人理事（第1回教育交流ホームステイ代表）山中業務執行理事は、フジ国際語学院（山中小白代表）第23回卒業式に、協会を代表して出席しました。昨年夏、『第1回教育交流ホームステイ in 山梨』を開催するにあたって、赤岡理事には、自らホストとしても学生を受け入れていただきました。ホームステイへの参加学生は、フジ国際語学院の中国人留学生（2012年度4月入学者）で、貴重な家庭体験を得ることができました。卒業式は、卒業証書授与と共に、実行委員会学生の進行のもと、全校生徒約1000人が参加し、和やかな雰囲気の中で終了しました。

第6回評議員会・第11回理事会

事業計画・収支予算を満場一致で確認

冒頭、黒田代表理事から日中間の困難な状況を打開するため、協会代表が訪中し、今後教育交流を進めるための会談を行い、今後の事業についての双方の意見交換したことを報告しました。

また、平成25年度事業計画、収支予算などを満場一致で確認しました。

教育工会を訪問



左から4人目万主席、右隣白立文国際代表（中華全国総工会にて）

2800万人組合員を代表して歓迎

2月25日、一行は中国教育科学文化衛生体育工会全国委員会を訪問し、万明東主席以下工会幹部と歓談しました。主席は冒頭、日中関係が困難な時期に関係改善のため訪れたことは大変重視しています。2800万人の組合員を代表して、今日は北京にいるすべての役員が参加しました。と熱烈歓迎の言葉を述べました。又、主席は、日教組との間には長年友誼の関係を進めてきました。今こそ、実際的な交流が大事な時期だと思います。また、貴協会の中国訪問に際しては、便宜を図りたいと話されました。黒田代表からは、万主席の言葉を日教組に伝えると共に、教育工会の厚意に対する感謝を述べました。



教育工会からは、万主席以下、主席待遇国際代表・白立文、副主席・陳志彪、副巡視員・袁茂清、調研処部長・万珍麗、教育工作部部長・周曉慧、中華全国総工会国際部副部長・彭勇、同亜太処副処長・邱麗珍、中国職工対外交流センター副部長・宋秀菊他の皆さんが出席されました。

【北京寸観】

やや空席の目立つ機内を背に、訪中団一行が到着した北京空港は、小雪交じりの天候だった。その雪も宋慶齡基金会からの迎車で市内に入るところには止み、春節後の空気の汚れはいささかでも清浄されたようだった。翌日、市内でも、マスク着用の市民を見るのは稀で、昼には青空も覗いた。北京を立つ日の朝、超高層ビルの間には、ぼやけた太陽が見えた。スマホの天気予報には、「北京 もや」と見える。帰国後翌28日、北京の車は、ライトをつけ、ビルの上部は見えなかったと新聞記事にあった。この日の北京。PM2.5は。(y)